

奇妙な猫たち

たなか踏基
Touki Tanaka

十一面観音菩薩像と猫たちの 奇妙な因縁とは……。

亡くなった彫刻家が残した十一面観音菩薩像。そこにはいつも猫がいた。
信州・安曇野を舞台にした奇妙な味の小説。

他に、三八豪雪の惨禍の中で過ごす少年の妖しい空想を描いた「新雪国幻想」を収録。

『奇妙な猫たち』では、「石の詩人」と嘱望されながら、従来の作風と敢えて異なる二体の石の十一面観音菩薩像を彫って逝った、安曇野生まれの苦悩する一人の芸術家を描いた。安曇野を現地取材して書上げた。猫という動物の奇妙な生態と、安曇野の風土や自然が織成す素晴らしさを詠込み、読者に届けたいと願っている。

(はしがきより)

四六判・並製・260頁 定価1,470円(税込み)



注文書 書店印	
注文	冊
新刊	
ISBN4-286-00748-0 C0093 ¥1400E	文芸社 たなか踏基・著
奇妙な猫たち	
定価 1,470円 (本体1,400円+税5%)	